

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jim@geppou.asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 迄お送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など)、
2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、
3. 専門分野、
4. 職務内容・担当科目、
5. (1) 着任時期、(2) 任期、
6. 応募資格、
7. 提出書類、
8. 応募締切・受付期間、
9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、
10. 応募上の注意、
11. その他 (待遇など)

名古屋大学太陽地球環境研究所教官 (1)

1. 助手 1 名
2. 総合解析部門 (愛知県豊川市)
3. 太陽地球系データの総合解析、モデリング/シミュレーションによる領域間相互作用の研究。特に、太陽圏/磁気圏/電離圏過程の研究。
4. 全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。
5. 平成 14 年度のできるだけ早い時期
6. 大学院修士課程修了又は同等以上
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、自薦の場合は本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先を記入した書面、他薦の場合は 2 名の方からの推薦書。
8. 2002 年 5 月 31 日(金)(必着)
9. (1) 〒 442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 上出洋介

(2) 〒 442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所

総合解析部門主任 品川裕之

Tel: 0533-89-5185

Fax: 0533-89-5090

E-mail: sinagawa@stelab.nagoya-u.ac.jp

10. 封筒に「総合解析部門教官公募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。

●名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

名古屋大学太陽地球環境研究所教官 (II)

1. 助手 1 名
 2. 電磁気圏環境部門 (愛知県名古屋市)
 3. 熱圏・電離圏・磁気圏物理学
当研究部門では、欧州非干渉散乱 (EISCAT) レーダー等の大型レーダーと大気光測定装置等を用いた地上観測、及び人工衛星利用等の手法により熱圏・電離圏・磁気圏環境の研究を行っています。
 4. 今回の公募では、電波的・光学的観測手法を用いて、電磁気圏環境の研究を進展させるとともに、全国共同利用研究所としての任務を十分に理解し、共同利用の促進に積極的に取り組んでいただける方を希望します。
 5. 決定後なるべく早い時期
 6. 大学院修士課程修了又は同等以上
 7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、自薦の場合は本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先を記入した書面、他薦の場合は 2 名の方からの推薦書。
 8. 2002 年 7 月 1 日(月)(必着)
 9. (1) 〒 442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 上出洋介
(2) 〒 464-8601 名古屋市長久区不老町
名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室
電磁気圏環境部門教授 藤井良一
Tel: 052-789-4309
Fax: 052-789-4311
 10. 封筒に「電磁気圏部門教官公募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。
- 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

京都大学大学院理学研究科 宇宙物理学教室 教官

1. 助教授 1名
2. 京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室
3. 天体物理学（理論）
5. 決定後できるだけ早い時期
7. 履歴書（電子メールアドレスを記入のこと）、研究論文リスト、主要論文別刷、これまでの研究の概要、研究計画書
8. 平成 14 年 7 月 5 日(金) 必着
9. 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科 宇宙物理学教室
舞原俊憲 Tel: 075-753-3901
E-mail: maihara@kusastro.kyoto-u.ac.jp
10. 封筒に「宇宙物理学教室・助教授・応募」と明記すること。
郵送による場合は簡易書留とすること。
応募書類は原則として返却いたしません。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

山口大学理学部助教授

1. 第 95 巻 1 号
2. 藤沢健太（国立天文台助手）
3. 2002 年 4 月 1 日

宇宙科学研究所 宇宙科学企画情報解析センター 助教授

1. 第 95 巻 2 号
2. 篠原 育（宇宙科学研究所 宇宙科学企画情報解析センター助手）
3. 2002 年 5 月 1 日

研究助成**(財) 井上科学振興財団、第 19 回井上學術賞・研究奨励賞の受賞候補者及び第 6 回井上フェローの募集**

(財)井上科学振興財団（西川哲治理事長）は第 19 回（平成 14 年度）井上學術賞、研究奨励賞の受賞候補者及び井上フェローの採用を希望する研究者を次のとおり募集しております（◎は共通です）。

第 19 回井上學術賞

1. 概要：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた 50 才未満の研究者に対し、學術賞（賞状及び金メダル、副賞 200 万円）を贈呈する。
2. 受賞件数：5 件以内
3. 募集方法：指定の関係 30 学会、及び財団の役員・評議員等からの推薦
4. 推薦件数：1 件
5. 推薦締切日：平成 14 年 8 月 20 日(火) 学会着
6. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所まで

第 19 回研究奨励賞

1. 概要：平成 11～13 年度の過去 3 年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した 35 才未満（医学・歯学・獣医学の分野については 37 才未満）の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者に、賞状及び研究奨励賞金 50 万円を贈呈する。
2. 受賞件数：30 件
3. 募集方法：博士論文を指導した研究者の推薦に基づき、学位を授与した大学の学長からの推薦
4. 推薦締切日：平成 14 年 9 月 20 日(金)

第 6 回「井上フェローの採用を希望する研究者」

1. 概要：基礎科学分野の新しい開拓的發展を目指す 45 歳未満の優秀な中堅研究者が、自身の研究計画の發展のため、自身が選定する若手研究者を井上フェローとして採用し、当該研究の推進に協力させるための助成である（一般公募）。井上フェローは全体で 10 名。博士号取得者（35 歳未満）、フェローには月額 35 万円の研究奨励金を支給（必要な場合は、往復国際航空運賃も支給）。平成 15 年度（平成 15 年 4 月 1 日、又はそれ以降）に採用、期間は 2 年。

但し、自己の研究室出身以外から選定すること。

2. 応募資格：国公立大学の原則として大学院博士課程の教員、並びに大学共同利用機関に所属する常勤研究者。45歳未満の者。

3. 申請受付：2002年6月1日から9月20日

◎照会先：財団法人 井上科学振興財団

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町 11-20

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

(財)宇宙科学振興会

平成14年度宇宙科学研究助成候補者募集

(国際研究集会参加費用補助)

(財)宇宙科学振興会(理事長 武井俊文)では、下記の参加希望者を募集します。関心のある方は募集要項・申請書を請求の上、お申込下さい。

1. 助成対象：宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者(昭和42年4月2日以降生まれの者に限る)で、国際研究集会で論文発表が原則として確定している者。但し論文発表採択が未確定の場合でも申請できますが論文発表が条件となります。なお、大学・研究機関等所属長の承諾を得て応募して下さい。

2. 援助金額：1採択当たり約15～20万円

3. 申込受付時期：随時受け付けますが、次の締切に間に合うようお願いします。(選考は年3～4回)

7月1日以降出発者については、5月15日

11月1日以降出発者については、9月15日

3月1日以降出発者については、1月15日

4. 採択件数：年間10～15件程度

5. 照会先：(財)宇宙科学振興会事務局

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1

文部科学省 宇宙科学研究所内

Tel: 042-751-1126 URL <http://www.spss.or.jp>

研究会・集案案内

第24回宇宙ステーション利用計画 ワークショップ 開催計画

会合名：第24回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

開催日時：平成14年7月16日(火)9：30～17：30

7月17日(水)9：30～17：30

開催場所：砂防会館 シェーンバッハ・砂防

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5

会合の内容：宇宙ステーション利用に関する我が国の推進体制、宇宙環境利用研究の実施状況等について、利用者の理解を深め、利用の拡大を図るとともに、利用者の意見をとりまとめ、今後の宇宙ステーションの利用計画等に反映する。

主催者名：宇宙開発事業団

共催者名：文部科学省(予定)

後援団体名：総務省、国土交通省(予定)

参加費：無料

詳細問い合わせ先：(財)宇宙環境利用推進センター

宇宙実験推進部 担当：篠崎/佐藤

〒169-8624 東京都新宿区西早稲田3-30-16

Tel: 03-5273-2442 Fax: 03-5273-0705

E-mail: sepd@jsup.or.jp

(参考)

宇宙開発事業団ホームページ

<http://www.nasda.go.jp/>

(財)宇宙環境利用推進センターホームページ

<http://www.jsup.or.jp>

New Directions for Close Binary Studies: “The Royal Road to the Stars” Kopal Memorial Meeting

標記の国際 Workshop が下記の要領で開催されます。

○日程：2002年6月24～28日

○場所：Dardanos Campus of Onsekiz Mart University
Canakkale, Turkey.

Istanbul 空港でLOCが待って案内、車で行く距離(トロイの遺跡の近く)

○SOC及びKey Speakers:

O. Demircan (Turkey, Rector of the University)

E. Guinan (US), S. Catalano (Italy),

H. Drechsel (Germany), A. Gimenez (Spain),

A. Cherepaschchuk (Russia), A. Batten (Canada),

E. Budding (New Zealand),……

○Registration Fee：\$150US(当日)

○宿泊費(朝食付)：\$25(single)/1日

○日本側窓口：国立天文台 北村正利

Tel: 0422-34-3605

Contact Address：Prof Dr. Osman Demircan

Canakkale Onsekiz Mart University, Terzioglu Campus,
TR-17020 Canakkale, TURKEY

Telephone: +90 286 2128814 Fax: +90 286 2128815

E-mail: demircan@comu.edu.tr

第 27 回光学シンポジウム

(光学技術・学術講演会)

「光学システム・光学素子の設計、製作、評価
を中心として」

日時：2002年6月20日(木)、21日(金)
場所：工学院大学(新宿区西新宿1-24-2)
主催：日本光学会(応用物理学会)
参加費：日本光学会、SPIE、OSK 会員 3000 円、応物
又は協賛・賛助学会員 5000 円、日本光学会学生会員
無料、非会員(一般 7000 円、学生 1000 円)。早期事
前申し込み(割引あり)は下記ホームページを参照
ください。天文学会は協賛団体となっております。

招待講演

- ・デジタルカメラ用光学系の評価法
青野康廣(ニコン)
- ・眼球光学系の特徴と屈折矯正
魚里 博(北里大学)
- ・光学と視覚と環境
大頭 仁(早稲田大学)
- ・回折現象とアポデゼイションー回顧録ー
朝倉利光(北海学園大学)
- ・プリズムを用いた超薄型デジタルカメラ用ズーム光
学系
萩森 仁(ミノルタ)
- ・次世代光ディスク用高NA非球面単レンズ
丸山晃一(旭光学工業)

- ◇6月20日講演終了後、懇親会を開催いたします。
- ◇光学設計ソフトウェア、光学関係書籍の展示・販売
を行います。
- ◇問い合わせ先：
コニカ(株)オプトテクノロジーカンパニー
野崎昭俊
E-mail: kougaku@opt.konica.co.jp
Tel: 0426-60-9314
Fax: 0426-60-9325

◇最新、詳細情報は、第27回光学シンポジウムのホ
ームページをご覧ください。

http://annex.jsap.or.jp/OSJ/meet/27th_sympto/index.html

共同利用・共同研究

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所
共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では、以下の観測プログラ
ムの公募を行います。カバーシートの変更等もありま
すので、最新の詳しい情報はホームページ
<http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/> をご覧下さい。各観
測プログラムと締切、及び送付方法は以下の通りです。
なお、送付方法はe-mail又は郵送でお願い致します。

〈野辺山45m鏡及びVLBI国内ネット〉

第21期共同利用観測(2002年11月~2003年5月)

- ・一般前期：2002年6月5日(水) JST15時
- ・長期共同利用：2002年6月5日(水) JST15時
- ・一般後期：2002年10月23日(水) JST15時
- ・Short Program 前期：2002年11月15日(金) JST15時
- ・Short Program 後期：2003年1月31日(金) JST15時

〈野辺山ミリ波干渉計〉

第16期共同利用観測(2002年11月~2003年5月)

- ・長期共同利用：2002年6月5日(水) JST15時
- ・一般共同利用：2002年7月3日(水) JST15時
- ・Rainbow 共同利用：2002年7月3日(水) JST15時

国立天文台野辺山宇宙電波観測所
所長 中井直正

会務案内

「PASJ 電子版について」

日本天文学会会員の皆様

PASJでは、54巻(2002年)より電子版へのアクセス制限を開始しました。

これまでアクセス認証の対象を、天文学会正会員と国外購読機関だけとしていましたが、この度、国内購読機関についてもIPアドレス認証による電子版へのアクセスを認めることになりました。国内の各購読機関には、学会より個別に案内をお送りしております。国内機関購読の料金は年間2万円(紙版・電子版のセット)で、電子版については同一キャンパス全体がアクセスを許可されます。

大学、研究機関等に所属される方々は、この機会にPASJの機関購読を御検討いただくとともに、それぞれの図書館(室)へお知らせ頂ければ幸いです。

(社)日本天文学会 PASJ 編集部

理事会議事録

日時：2002年3月28日(木)

12時25分～13時35分

場所：茨城大学 地域総合研究所(3F)会議室

出席者：松田、郷田、大石、松原、立松、上野、大橋、茂山、加藤、松元、黒田、吉田 以上12名

欠席者：田原、唐牛、山内 以上3名

有効委任状提出者：田原 以上1名

他に、谷口義明氏(東北大学)、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した

議長：松田卓也

署名人：郷田直輝、大石雅寿

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)

郷田理事より前回(2002年1月12日)の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。

2. 2002年春季年会について

茂山理事が報告を行った。3月27日に開催された記者会見には3社が参加し、ジュニアセッションの件

が記事になった。

議題

1. 新入会員の承認(資料2)

2002年1月13日から3月28日までの間の新入会員リストを郷田理事が紹介し、12名の正会員、3名の準会員、2団体の団体会員、及び1社の賛助会員の入会が承認された。また退会会員、移籍会員の報告も行われた。

2. 秋季年会について

2002年秋季年会(宮崎)の準備状況について、山内理事の代理として郷田理事が報告した。10月6日に公開講演会と記者会見を行う。宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会、宮崎日日新聞、読売新聞に後援を依頼することとした。また茂山理事から、企画セッション(コンビナー制)については柴田一成氏(京都大)が世話人を引き受ける意向であることが紹介された。

3. 2003年春季年会について

2003年春季年会は東北大学を会場として開催される。その準備状況について谷口氏から報告があった。2003年3月24日～26日に川内北キャンパスで開催される予定である。公開講演会は仙台国際センターで仙台市並びに仙台市天文台との共催として行うことを承認した。

4. 新役員の選出と各委員会委員の選出について

2003～2004年度の学会役員(理事長、副理事長、理事、監事)及び各委員会委員の選出状況について郷田理事が報告した。5月に実務理事会を開催して構成案を詰め、7月の理事会・評議員会で承認し、秋季総会にて会員の承認するという手順になるため、5月の実務理事会(5月18日を予定)までに候補者を決めることを確認した。

5. 研究奨励賞について(資料3)

大学院生やポストドク研究者を対象とした賞を制定するため、理事会の依頼に基づいて検討を行った結果が研究奨励賞選考委員会より提出され、その内容を郷田理事が報告した。これに関して、意見交換の結果、本件については理事会でさらに検討を続けることとなった。

6. 欧文報告論文賞について

評議員会から要請があった欧文報告論文賞対象論文の引用件数の調査方法について意見交換を行った。ADSの検索機能を用いれば容易に必要な情報を取り出せ、参考資料としては有効であることを確認し、こ

のことを同選考委員会に伝達することを確認した。

7. 会員名簿の毎年発行について

評議員会から要請があった会員名簿の毎年発行が可能かどうかについて検討を行った。発行には莫大な費用と手間がかかるため、従来通り隔年発行とすることを確認した。また個人情報を守る必要があるため、もし電子版を発行するのであれば会員の同意を得る必要があることを確認した。

8. 評議員の選挙方法について

評議員数を30名から20名に削減する件、及び、現定款では禁止されていない評議員と理事の兼任について意見交換を行った。その結果、評議員数は20名を上限とする、また、理事と評議員は兼任を禁止することが望ましいことを確認した。これに基づいて評議員数を削減するための評議員選挙施行細則の改訂作業に着手することとした。理事と評議員の兼任禁止については、評議員数の削減の結果を見守ることとし、今回は見送ることとした。

9. 総会の運営方法に関する提案（資料4）

前回から継続している総会運営方法に関する検討結果を郷田理事が報告した。意見交換の結果、原案を承認の上、今後の総会運営に当たることとした。

10. その他

- (1) 天文学会への入退会を簡便に行うためにWebから手続きができるように準備を進めている。お試し版を作成したので、理事にテストして欲しいということを松原理事が報告した。
- (2) PASJ 電子版の有料化に伴う認証手続きについて大橋理事が報告した。国内の機関についてはアクセス不可としているが、要望もあり、今後はドメイン認証によりアクセス可能にすることを決定した。
- (3) 上野理事より惑星科学連絡会が発足することになったとの報告があった。
- (4) 次回の理事会を2002年6月29日(土)開催予定とすることを決定した。

2002年4月12日

議長 松田卓也 印
 署名人 郷田直輝 印
 署名人 大石雅寿 印

評議員会議事録

日時：2002年3月29日(金)

12時30分～13時30分

場所：茨城大学 地域総合研究所 3F 会議室

出席者：岡村、海部、加藤、小山、柴田、須藤、千田、高橋、舞原、牧島、吉井、家、池内、石黒、高津、小杉、谷口、長谷川、林、松田、渡部以上21名

欠席者：井上、太田、高原、福井、木下、佐藤(勝)、佐藤(修)、中村、野本 以上9名

有効委任状提出者：井上、太田、高原、福井、木下、佐藤(勝)、佐藤(修)、野本 以上8名

他に理事会から郷田理事、大石理事、松原理事、立松理事、茂山理事、東條事務長が出席した。

議事に先立ち、議長に谷口義明氏を、署名人に吉井譲氏と舞原俊憲氏を選出した。

報告

1. 前回議事録の確認（資料1）

郷田理事から前回議事録が報告され、誤植を修正の上承認された。

2. 2002年春季年会について

茂山理事より春季年会について報告があった。講演数は498件で、うち口頭講演は288件、ポスター講演は計210件である。またPDLは6件である。28日に開催されたジュニアセッションでの発表数は23件であり、会場には300名以上もの参加者があり大変盛況であった。記者会見には3社が参加し、新聞等に記事が掲載された。

3. 2002年春季通常総会について

郷田理事より本日夕方に開催される春季通常総会について報告があった。現時点における事前投票数は281となっており総会は成立する見込みである。また議案は2件であるが、その後いくつかの案件について会員からの生の声を聞く予定である。

議題

1. 総会の運営方法に関する提案（資料2）

前回から継続している総会運営方法に関する検討結果を郷田理事が報告した。その結果、原案を承認の上、今後の総会運営に当たることとした。

2. その他

- (1) 欧文報告論文賞を選考する際に引用件数に関する資料を理事会に作成依頼した件について、郷田理事が報告した。引用件数はADS等の検索機能を利用すれば容易に作成できるということを同賞選考委員会に理事会から伝達する方針を評議員会として承認した。
- (2) 前回の評議員会において理事会に対して要望が寄せられた会員名簿の毎年発行について郷田理事が検討結果を報告した。発行の手間や費用がかかるため毎年発行は難しいので、理事会としてはこれまで通り隔年発行としたい。これについて意見交換を行い、印刷版については従来通りとすることを確認した。これに関連して渡部評議員から名前を入力すると電子メールアドレスを検索できる方策を検討して欲しいという意見が出され、大石理事より技術的には可能であるとの返答があった。技術的な面を詰めた上で次回の評議員会に諮り、総会での承認を得た上で実行する方針が確認された。また、名簿の有料化について検討することとした。
- (3) 海部評議員から、ジュニアセッションや公開天文台などさまざまな天文普及活動の進展が著しく、学会としてもそうした状況を踏まえて、新しいパワーも含めて教育普及活動の新たな方向を検討してはどうかとの提案があった。これに関連して、天文教育委員会の現状、社会の変化と多種多様な要望への対応、天文普及関係者の天文学会への期待、他学会の状況、大学や大学共同利用機関の普及活動への学会の「触媒」的役割、など活発な議論が交わされた。天文教育委員会に新たな委員を加えることも含め、教育理事を中心に今後の積極的対応を検討すること、また理事会において天文普及活動を顕彰する賞の新設について検討を継続することとなった。
- (4) 家評議員より、会員数の減少が著しいことに関する理事会の考えを質した。これに対し、松原理事から、正会員から準会員への移籍が多いこと、また準会員の退会者が多いことが原因であり、減少防止に努めたいとの回答があった。
- (5) 次回の評議員会の日程を2002年7月13日(土)と決定した。

2002年4月20日

議長 谷口義明 印
 署名人 吉井 譲 印
 署名人 舞原俊憲 印

通常総会議事録

開催日時：2002年3月29日(金)
 16：00～17：30
 開催場所：茨城大学人文学部講義棟
 議長：田原博人

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。事前投票総数は287、委任状数は1、総会出席者数は182である。出席者のうちで事前投票をした25名については、事前投票を無効とした。従って有効出席者総数は445で、定足数(正会員総数1363人の5分の1=273)を満たすことを確認した。次に署名人として福江 純氏、横沢正芳氏が選出された。続いて各賞の授与式が行われた。

● 天体発見賞：

天体発見賞選考委員会の選考及び評議員会における承認を経て、以下の6件5名に天体発見賞を授与した。
 板垣公一氏：

超新星2001bqおよび超新星2001gdの発見
 長谷田勝美氏：新星さそり座V1178の発見
 中村祐二氏：新星はくちょう座V2274の発見
 多胡昭彦氏：新星はくちょう座V2275の発見
 BATTERSプロジェクト：

彗星C/2001 W2 (BATTERS)の発見

● 天体発見功労賞：

天体発見賞選考委員会の選考及び評議員会における承認を経て、以下の1件1名に天体発見功労賞を授与した。

畑山和也氏：新星はくちょう座V2275の独立発見

● 天文功労賞：

今年度より新設された天文功労賞を、天体発見賞選考委員会の選考及び評議員会における承認を経て、以下の4件4名に授与した。

○ 長期的業績

成見博秋氏：変光星の目視測光25万天体

○ 短期的業績

薄 謙一氏：1998年ポン・ウイネッケ流星群の活動を検出

大島誠人氏：2001年のや座WZの増光を検出

村岡健治氏：P/2001 X3を11D/Tempel-Swiftと同定

● 研究奨励賞：

研究奨励賞選考委員会の選考及び評議員会における承認を経て、研究奨励賞を以下の1件1名に授与した。
 児玉忠恭氏：銀河団の形成と進化についての研究

● 林忠四郎賞・欧文報告論文賞：

林忠四郎賞選考委員会の選考及び評議員会における

承認を経て、1件1名に林忠四郎賞を、1件24名に欧文報告論文賞を授与した。

○林忠四郎賞

柴田一成氏：宇宙ジェット・フレアにおける基礎電磁流体機構の解明

○欧文報告論文賞

福井康雄氏, 水野範和氏, 山口玲子氏, 水野 亮氏, 大西利和氏, 小川英夫氏, 米倉覚則氏, 河村晶子氏, 立原研悟氏, 肖 可成氏, 山口伸行氏, 原 淳氏, 早川貴敬氏, 加藤滋郎氏, 阿部理平氏, 齋藤弘雄氏, 真野 悟氏, 松永健一氏, 峯 義浩氏, 森口義明氏, 青山紘子氏, 浅山信一郎氏, 吉川奈緒氏,
Monika Rubio 氏：First Results of a CO Survey of the Large Magellanic Cloud with NANTEN; Giant Molecular Clouds as Formation Sites of Populous Clusters (Publ. Astron. Soc. Japan, vol. 51, 1999, pp. 745-749)

2. 松原理事が資料に基づき2001年度収支決算報告を行った。引き続き小杉監事が監査報告を行った(第2号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

3. その他

- (1) 一般会計財政改革案を松原理事が説明した。質疑応答の結果会員から貴重な意見が示され、これらを今後理事会における同改革案の改良に役立てることとした。
- (2) 総会の運営方法に関する提案を郷田理事が説明し、質疑応答を行った。
- (3) 長谷川哲夫氏が、7月に東京で開催されるIAU Regional Meeting に関してのアナウンスを行った。
- (4) 小暮智一氏がアジア地域の国々からIAU Regional Meeting に参加する研究者に旅費補助を行うための寄付の呼びかけを行った。

議事の経過および結果

2002年4月15日

1. 郷田理事が資料に基づき2001年度事業報告を行った(第1号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

議長 田原博人 印
署名人 福江 純 印
署名人 横沢正芳 印

日本天文学会 2002 年春季年会報告

2002年春季年会は3月28日(木)～3月30日(土)の3日間、茨城大学(茨城県水戸市)にて8会場(口頭会場7, ポスター会場1)を使って開催された。講演件数は口頭講演が288件, ポスター講演が210件あり, 合計で498講演だった。これに加え, ポストデッドライン講演が10件, 最新情報コーナーが3件あった。年会参加者は875名(そのうちジュニアセッション, 教育フォーラムのみの参加者は125名)だった。ジュニアセッションの講演件数は23件で, うちポスター講演は20件だった。吉田龍生氏を中心とする茨城大学の方々の尽力で順調に行われた。「しし座流星群」企画セッションが行われた。座長は次の34名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す(敬称略)。

	3月28日(木)		3月29日(金)		3月30日(土)	
	10:00-12:00	14:00-16:00	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30
A	長島雅裕 (国立天)	本間希樹 (国立天)	峰崎岳夫 (東大)	中川貴雄 (宇宙研)	谷口義明 (東北大)	亀野誠二 (国立天)
B	田村元秀 (国立天)	松元亮治 (千葉大)	嶺重 慎 (京大)	蜂巢 泉 (東大)	大橋隆哉 (都立大)	—
C	鹿野良平 (国立天)	小杉健郎 (宇宙研)	柴田一成 (京大)	廣瀬重信 (東理大)	富阪幸治 (国立天)	中本泰史 (筑波大)
D	松原英雄 (宇宙研)	牧島一夫 (東大)	長瀬文昭 (宇宙研)	鈴木文二 (三郷工高)	中村 士 (国立天)	福島登志夫 (国立天)
E	田原 讓 (名大)	—	渡部潤一 (国立天)	中村卓司 (京大)	福重俊幸 (東大)	浅田秀樹 (弘前大)
F	立松健一 (国立天)	岡 朋治 (東大)	犬塚修一郎 (京大)	吉田道利 (国立天)	臼田知史 (国立天)	藤沢健太 (国立天)

〈記者会見〉

春季年会の前日、3月27日13:30から茨城大学地域総合研究棟会議室で記者会見を行った。以下のトピックスについての解説が行われた。3社の報道機関の出席があった。

・研究発表

(1) 日本天文学会におけるジュニアセッションの試み—企画から3年、その経緯と今後の展望—

記者会見発表者：吉川 真 (宇宙科学研究所・助教授/ジュニアセッション世話人代表)

講演番号：Y06a

(2) 2001年しし座流星群と高校生天体観測ネットワーク

記者会見発表者：渡部潤一 (国立天文台・助教授)

講演番号：Y20b, Y21b, Y22b 及びジュニアセッションの関連講演 A01a ~ A38b までのしし座流星群企画1セッションの講演

(3) 若き宇宙にある超巨大電離ガス雲は史上最大の宇宙火花か？

記者会見発表者：谷口義明 (東北大学大学院理学研究科天文学専攻・助教授)

講演番号：R32a

〈ALMA 特別セッション〉

「ALMA で探る宇宙—活動銀河の形成と進化—」

日本天文学会、日本学術会議天文学研究連絡委員会、同電波科学研究連絡委員会J分科会、国立天文台電波専門委員会 ALMA 計画推進小委員会の共同主催により、3月28日16:00~18:30まで開催された。今回は LMSA 特別セッションから通算し5回を数えることとなったが、200名収容のG会場は多数の若手研究者を含めて、満員の盛況であった。今回は活動銀河をテーマとして、以下のプログラムで進められた。

1. あいさつ (天文研連 池内 了委員長)
2. ALMA 計画の現状と今後 (国立天文台教授 川辺良平)
3. ALMA で探る活動銀河の進化 (東北大学助教授 谷口義明)
4. 活動銀河形成の諸問題と ALMA (京都大学助教授 鶴 剛)
5. 総合討論

— ALMA と各種大型観測機器との研究協力—

ショートコメントとパネル討論 (司会：国立天文台教授 井上 允)

米欧との国際協力と国内予算状況の厳しく微妙な現状報告のあと、軽妙で辛味の効いた話と、X線関係者の方々が知恵を絞って最先端の成果を基に将来を見通す力作を講演して頂いた。総合討論では一般的な議論に入る前に、大型観測装置に関連している方々にそれぞれ短いコメントを頂いた。国枝秀世 (ASTRO-E2)、岩室史英 (すばる)、中川貴雄 (ASTRO-F)、村田泰宏 (VSOP/VSOP2) 各氏である。その後講演者と共に前に並んで頂き、パネル討論形式で議論を進めた。時間の制約のために十分な議論は出来なかったが、講演をふくめ、波長横断的に活動銀河について最先端の話題がいろいろと提供された。活動銀河は ALMA の主テーマでない、と考えられていることがむしろ幸いして、広範囲な観点から興味ある議論が出来たのではないだろうか。天文学会ならでの企画が効を奏したと思われる。最後に、講演者およびショートコメントをして頂いた方々、並びに多数の参加者の方々と学会関係者に感謝する。世話人は池内 了、鶴 剛、井上 允が務めた。

(井上 允)

〈ジュニアセッション〉

第4回のジュニアセッションを開催した。今回は、発表総数が23件と非常に多く、また、イギリスの生徒の発表もあるなどかなり盛況なものとなった。今回も天文教育普及研究会には共催となっていたほか、日本惑星協会、ブリティッシュ・カウンシル、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会、茨城大学に後援していただいた。特にブリティッシュ・カウンシルには、イギリスから生徒を呼ぶ費用や同時通訳の費用なども含めて全面的に協力していただいた。

口頭発表のセッションは、3月28日(木)の10:00~12:00と14:00~15:50に行われ、19件の発表があった。イギリスの生徒の発表は午後の最初に行われ、3人の生徒によって発表がなされた。この午後のセッションでは、同時通訳によって英語から日本語および日本語から英語への通訳がなされた。口頭セッションの司会は、午前を大西浩次氏と島浩二氏に、午後を雁沢夏子氏と鈴木文二氏にお願いした。また、会期を通じてポスターによる研究発表も行われ、合計20件のポスター(うち、ポスターのみで口頭発表がないものが4件)が掲示された。な

お、口頭セッションの日のお昼の時間帯には、口頭セッションの会場で昼食を取りながらの交流会を行った。

今回は、口頭発表のセッションは、通常の学会講演と同時に開催されたが、口頭発表のセッションへの参加者は215名ほどであった。また、日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報センター、ライブ!ユニバースの協力により、口頭セッションはインターネットで中継された。発表はどれも熱心に研究されたものであり、質疑も活発になされた。なお、今回も、セッション参加者にはコメント用紙とアンケート用紙を配布し、記入をしてもらった。

今回のジュニアセッションでは、上記の諸機関の方々に加えて、開催地のスタッフの方々にも多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

(吉川 真)

〈天文教育フォーラム〉

今年のフォーラムは「新しい天文教育・普及の流れが見えた?」というテーマで3月28日(16:00~17:30)に天文教育普及研究会との共催で行った。横尾武夫氏(大阪教育大学)は天文教育普及研究会の設立から現在までの経緯、会報の発行、ワーキンググループなどの活動について紹介を行った。鈴木文二氏(埼玉県立三郷工業技術高校)からは、しし座流星群を中心とした高校生観測会が4年間つづいており、毎年全国で数千人規模のものになっていること、高校生観測会の具体的な様子や実施上の問題点などを報告した。室井恭子氏(ベネッセコーポレーション)からは、国立天文台の体験学習プログラムに参加した高校生たちへのアンケート調査の結果が報告された。縣秀彦氏(国立天文台)は科学への無関心が天文にも及んできている現状を述べ、JAHOUを一例として、学習者主体の科学教育を支援するための方策が論じられた。参加者は約100名で、報告のあとの討論ではこれら教育の新しい試みが活発なことへの評価や、学会の役割について様々な意見が交わされた。

(加藤万里子)

〈公開講演会〉

講演会は「宇宙の歴史」というタイトルで、3月31日(日)14:00より茨城県立図書館2階視聴覚ホールで開催された。田原博人理事長(宇都宮大学学長)の挨拶のあとで、田中秀和氏(東京工業大学)の講演「太陽系外惑星の発見:第2の地球は何処に?」があった。系外惑星の発見と、それが太陽系と似ていないものであった驚きからはじまり、惑星を観測する方法、ドップラー効果、太陽系の惑星形成、生命のいそうな地球型惑星を見つける方法など系外惑星をめぐる話題を、きれいな液晶プロジェクターの画面を使って講演した。

休憩後には「宇宙の過去はどこまで見えたか」という題で岡村定矩氏(東京大学)が講演した。宇宙にある天体の様子からはじまり、赤方偏移が最大の天体の姿(点状)を鑑賞し、宇宙では遠くを見ると過去が見えること、宇宙膨張、コービー衛星の結果、ライマン α の雲と宇宙の再電離はいつ起こったか、重力レンズなど盛りだくさんの内容を手際よくていねいに解説した。

入場者は250名でホールが満員になり、用意した冊子がすべて無くなるほどであった。それぞれの講演の後は質問がたくさん出て、熱気あふれる雰囲気であった。

(加藤万里子)

〈通常総会〉

「通常総会議事録」306頁を参照。

〈懇親会〉

懇親会は3月29日(金)18:00~20:00に、茨城大学生協同組合・食堂において開催された。参加者は約270名であった。理事長、茨城大学学長、田中靖夫氏の挨拶のあと、小暮智一氏による乾杯で始まった。懇談の後、次回開催地を代表して宮崎大学の廿日出勇氏による挨拶があった。(株)エイ・イー・エスよりご芳志を頂いた。この場を借りて感謝の意を表したい。

(吉田龍生)

〈保育室〉

保育室は会場の隣にある理学部の建物2階の教室を使用した。机と椅子を運び出し、レンタル畳の上にカーペットを敷いた。3家族、子供のべ11人の利用があった。保育者の派遣は(有)ママMATEに依頼した。実施にあたって茨城大学のみなさまにお世話いただいたことを感謝する。

(加藤万里子)

(年会実行委員長:茂山俊和)

内地留学奨学金受給者の応募について

この奨学金は主として学校の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台などの社会教育施設の職員などやアマチュア天文研究者の方々の研究活動・調査活動を支援する制度です。学生の応募も可能です。

日本国内の大学や天文台などの研究機関を利用し、その研究者の指導を受けて研究活動を行うことになります。

いままで、多くの方がこの制度を利用して、それぞれ関心をお持ちのテーマで研究をされてきました。奮って、ご応募下さい。なお、研究をしてみたいがその内容にふさわしい機関や指導者が分からないという場合は、内地留学奨学金選考委員長に相談してください。

過去の奨学金の対象となった研究テーマの例は以下の通りです。

- ・市街地における光害の実態と調査
- ・天文教材開発のための調査研究
- ・19世紀の流星雨に関する文献の調査研究
- ・彗星の分光観測
- ・突発的流星群の起源と出現予報
- ・火球の軌道と物理の研究
- ・接食解析による月縁地形データの整備
- ・ブライトリム分子雲に付随するおうし座T型星の探査
- ・高等学校物理における天文分野の指導方法に関する研究
- ・太陽系天体のミリ波サブミリ波観測

募集要項

応募資格：日本天文学会員

採択数：若干名

留学期間：2003年1月から1年間の希望する期間
希望者と受入研究機関、受入研究者と相談の上、夏休みなどの長期休業時に集中させたり、週に1回程度の研究日を設定するなどの方法が考えられます。

支給額：25万円以下で、支給は2003年1月を予定しています。

申し込み：応募申請書に必要事項を記入し、受入研究者が押印の上、「〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会理事長 宛」郵送してください。

応募締切：2002年9月30日(火) 必着

審査：内地留学選考委員会(内規第5条)で審査の上、決定し、10月下旬に通知します。

応募用紙：日本天文学会事務所にあります。(学会事務所に電話をくだされば郵送します。)申請書の書き方の例もありますからご請求ください。

なお、天文学会の会員名簿の巻末に内地留学奨学金に関する内規があります。

ご相談・問い合わせ先：

京都府立洛東高等学校
〒607-8017 京都市山科区安朱川向町10
内地留学奨学金選考委員長 西村昌能
Tel: 075-581-1124
Fax: 075-581-1125
E-mail: mnisimura@kcat.zaq.ne.jp

天文学会事務所
Tel: 0422-31-1359
Fax: 0422-31-5487
E-mail: jimuj@asj.or.jp

編集委員 上野宗孝(編集長), 伊藤孝士, 上田暁俊, 大石奈緒子, 太田耕司,	
小野智子, 斎藤芳隆, 土橋一仁, 内藤統也, 藤田 裕	
平成14年5月20日	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円)	発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359(事務室) / 0422-31-5488(月報・欧文編集)	Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト http://www.asj.or.jp/	月報編集 e-mail: toukou@asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子